

多摩川河口鳥類目録

Birds List at the Mouth of Tama River, Central Honshu, Japan.

白田仁志¹・桑原和之²・箕輪義隆³・石黒夏美⁴・杉坂 学⁵Hitoshi SHIRATA¹, Kazuyuki KUWABARA², Yoshitaka MINOWA³, Natsumi ISHIGURO⁴
and Manabu SUGISAKA⁵

キーワード：湿地、ウェットランド、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、アジサシ類

はじめに

鳥類は、生態系における一員として非常に重要な位置を占めている。河川に生息する鳥類でも、特に河口域に生息する水鳥は、干潟の浄化作用を考える上で無視できない。また、水鳥類の多くは、渡り鳥であり、湿地 (Wetland: ウェットランド) を主な生息域としている。ただし、湿地を主な生息域としているといっても、一ヶ所の湿地のみを利用するのではない。繁殖期、越冬期、渡りの時期などにより湿地を使い分け、水鳥は極東地域の湿地を広く利用している。

ただし、国内での水鳥類の研究は進んでおらず、その個体数や分布に関する報告も少ない。本研究では、これら湿地を広く利用する水鳥類が、どのように生活しているかを明確にするために、多摩川河口域で生活する種のリストを作成する。また、多摩川河口域にみられる水鳥類の多くは、広く河川を利用するので、干潟域などの湿地に生息する鳥類相と中流域の鳥類相も調べ、多摩川河口域の鳥類相を明確にしたい。

調査地

多摩川は東京都、山梨県、神奈川県 の3県にまたがる。下流は、東京都大田区と神奈川県川崎市の間を流れ、東京湾奥部にそそぎ込む (図1)。東京湾は、人間活動の影響を大きく受けた代表的な内湾である (小倉, 1993)。東京湾では、小櫃川河口、富津、船橋～市川沖 (三

番瀬) や江戸川河口に干潟が形成されているが (沼田・風呂田, 1997)、これらに次ぐ規模の広い干潟が干潮時にみられる。江戸時代までは、河口域に形成されるような広大な湿地がみられ、多くの水鳥が生息していた (松田, 1995)。現在の東京湾岸の臨海部では、このような湿地環境はほとんど失われているといっても過言ではなく、神奈川県では野島・平潟などに小規模な干潟が残されているに過ぎない (海をつくる会, 1995)。河口域には明治時代から近代工業が進出し、ヨシ原や干潟は埋め立てられ、工業団地となった (三輪, 1988)。多摩川河口も北側の左岸に東京国際空港、南側の右岸に工場群があり、工場以外の場所は、ほとんど住宅地である。河口の護岸は整備され、自然堤防はすべて人工の近代堤防に改変されている (矢作, 1989)。河口の両岸には、公園や運動場が造成されており、その地を利用するため、休日の人出は多い。工業化、都市化に伴い広大な自然は失われたが、河口域の中州や河川敷は、鳥類の生息地として貴重な環境である (日本野鳥の会神奈川県支部, 1996)。

奥田, 1988によると、多摩川下流の植生は壊滅的としている。しかし、河口部の人家、工業地帯、などには鳥類の生息地がほとんど無いため、河川敷の水際や礫地にあるヨシ、ウラギク、セイタカアワダチソウなどの群落は、鳥類にとって良好な生息地となる。これらの草本植

1 白田仁志 日本野鳥の会神奈川県支部 〒226-0016

2 桑原和之 千葉県立中央博物館 〒260-8682

3 箕輪義隆 日本鳥類保護連盟 〒160-0022

4 石黒夏美 東京農工大学 土壌・水環境学研究室

5 杉坂 学 日本野鳥の会神奈川県支部 〒221-0061

神奈川県横浜市緑区霧ヶ丘1-29-11 フローラハイソ101

千葉県中央区青葉町955-2 E-mail: kuwabara@chiba-muse.or.jp

新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル5F

〒183-0054 東京都府中市幸町

神奈川県横浜市神奈川区七島町13-12

物の植生がある多摩川には、数多くの鳥類が集まる(津戸, 1984)。スズメやカワラヒワなどのスズメ目の種は、堤防などに生育しているイヌビエ、ヨモギ、ブタクサ、エノコログサの種子を餌とする。川沿いの公園や人家の植栽林は、ムクドリ、メジロ、シジュウカラの採食場所である。さらにこれらの植栽は、ヒヨドリ、オナガ、キジバトの営巣地ともなっている。

植生は単純であるが、河口部には干潟が形成されている。東京湾の干潟には、シギ・チドリ類、カモメ類などの水鳥の餌となる甲殻類、多毛類、二枚貝類などの底生動物が多い(和田ら, 1996)。転石帯には、ケフサイソガニ、砂質の干潟にはコメツキガニ、泥地にはヤマトオサガニなどが生息している。

調査方法

調査範囲の多摩川河口域を図1に示した。調査地およびリストに掲載した記録の範囲は、箕輪ら, 1991と同じ範囲である。調査では、8~10倍の双眼鏡、20~30倍の望遠鏡を使い、調査範囲で確認できた種を全てカウントした。計数にあたっては、個体数の多い種は、計数器(数取器)を用いた。表1に1996年の多摩川河口干潟(調査地A)で記録された種の個体数を示した。範囲はst.1-3である。表2には、六郷干潟と羽田干潟(調査地B)で記録された種の個体数を示した。範囲はst.4-5である。表3には、st.1-5で記録された多摩川河口での鳥類の個体数変動、六郷干潟(調査地B)で記録された種の個体数の合計を示した。表4には、1993~1995年に多摩川河口干潟(調査地A)で記録された種を●で示した。範囲はst.1-3であるが、個体数は記入していない。

多摩川河口部の鳥類相を明確にするために、中流でも個体数の調査を行った。多摩川中流域での調査範囲は、関戸橋から是政橋間の約3kmの河川敷である。中流域は、東京都府中市と稲城市との市境に位置し、河口からの距離は約30kmである。左岸は稲城市であり、工場やゴルフ場がある。右岸は府中市であり、主に住宅や公園として利用されている。河川敷は公園やグラウンドとして利用されているが、ヨシ原も一部には残されている。中州も形成されているが、近年、大規模な洪水がないため、植生に覆

われた部分が多い。護岸は、一部整備されているが、大部分はあまり手を加えられていない。堤防もコンクリートで覆われた部分は少ない。中流域は、全く自然な状態では無いが、河口域にくらべると比較的鳥類が生息するには良い環境である。休日の人出は、河口域と同様極めて多く、つり人なども常時みられる。調査方法は、河口部と同様であり、観察された鳥類を種ごとに集計した。集計した結果を表5に示した。1995年の鳥類の個体数変動は、関戸橋から是政橋までの範囲の調査結果である。1996年のセンサス(表6)では、1996年10月9日、16日、23日、30日、11月7日、14日、21日、27日、29日、12月6日、12日、19日、27日の13回の記録は、大丸堰より約500m上流の地域から是政橋までの範囲のセンサス結果とした。

結果および考察

1. 鳥類相

多摩川河口では、箕輪ら, 1991によると1990年までは156種が、箕輪ら, 1996によると1995年までに177種が記録されている。本報告では、187種が記載された。神奈川県下では、中村, 1974が315種、柴田, 1983が309種、日本野鳥の会神奈川県支部, 1986では1977年1月~1986年6月までの約10年間に332種が、日本野鳥の会神奈川県支部, 1992では335種が記載されている。これから比較すると多摩川河口では、神奈川県で記録されている種の半数以上が記録されていることになる。また、多摩川中流では、1968~1990年に128種が(東京農業大学野鳥の会, 1981)、流域全体では、1961年~1979年2月までに、190種が記録されている(日本野鳥の会, 1977)。これらのことから、多摩川河口域に多くの種が飛来していることが伺える。

記録された種のうち、水鳥が全体の約70%を占めている。その水鳥のうち最も種数が多く記載された目は、チドリ目で70種、次いでガンカモ目の27種、コウノトリ目の10種である。カイツブリ目、ツル目とミズナギドリ目が各3種であり、その他、ペリカン目の2種が記録された。陸鳥のうち最も多い目はスズメ目で53種が観察された。中流域で記録されるようなヤマセミなどは、まだ確認されていない(原田, 1992)。その他は少なく、ワシタカ目10種、ハト目2種、

ブッポウソウ目、キツツキ目、ホトトギス目、アマツバメ目は1種しか記録されていない。陸鳥が少ない理由は、旅鳥が渡りの中継地として利用するような雑木林や広大なヨシ原がないためである。

しかし、水鳥の種数とともに個体数が多いことが、表1~5により読み取れる。特に、多摩川河口では、カモ類とカモメ類が多いことは特筆できよう。ただし、カモ類とカモメ類には個体数の変遷が大きい。黒田, 1908によると、4月頃に200~300羽のヨシガモの群れや、初冬に10,000~16,000羽のオナガガモがみられるというが、現在ではこれほどの個体数はみられない。ヒシクイなども、冬、群れをなしていると言われているが、1980年以降記録はない。ウミアイサやカワアイサも現在では稀である。カモ類では、減少している種が多いが、カモメ類は近年個体数が激増している。

夏期は、繁殖しているカルガモが優占している。秋から冬にかけては、マガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモなどが普通にみられる。特に、ホシハジロやキンクロハジロ、スズガモは個体数も多い。東京湾の干潟に多いヒドリガモ、ヨシガモ、沼や湖に多いハシビロガモ、オカヨシガモは少ない。中流域で普通にみられるヒドリガモ、ミコアイサ、オカヨシガモなどは稀である。関東周辺ではウミアイサ、カワアイサは稀であるか、個体数は少なく、ホオジロガモなどは減少しているようである。カモ類の種構成は、大師橋より上流と下流では相当異なる。又、浮島周辺の河口域でも全く異なっている。カモ類では、マガモ、カルガモ、コガモなどの*Anas*属の種が上流の六郷干潟と羽田干潟(B)に、スズガモやキンクロハジロなどの*Aythya*属の種が下流の多摩川河口干潟(A)に多い。特に、st.1の浮島から河口域にかけてはスズガモの数千羽の群れが休息している。

河口域の干潟には、カモメ類が休息する砂洲があり、カモメ類の混群がみられる。カモメ類では、夏から秋にかけてウミネコが、冬期はユリカモメやセグロカモメが数百から数千の単位でみられることは、箕輪ら, 1991でも述べられている。春の渡りの時期には、カモメも多く、冬から春先にかけて、数百羽の群れも観察され

る。セグロカモメやオオセグロカモメは、大師橋下流に多いが、ユリカモメやウミネコは上流にも多数がみられる。海上でよく採食している種は、ユリカモメではなくセグロカモメである。秋から冬にかけては、ユリカモメが数百羽みられ、干潟で多毛類を採食する。ユリカモメは干潟で採食する姿がみられるだけでなく、朝、東京湾から多摩川上流へ飛翔する個体も多い。逆に、夕方には暁に向かう数百羽単位の群れが何群もみられる。六郷水門周辺で人から給餌を受けている個体や休息している群れをみる。1990年代よりカモメ類の個体数は激増している。ユリカモメは、春の渡りの時期には10,000羽を超えると考えられている。

春と秋の渡りの期間にはシギ・チドリ類が渡りの中継地として干潟を利用し、キアシシギ、シロチドリ、メダイチドリ、トウネンなどがみられる。東京と神奈川県でシギ・チドリ類が、普通に生息する干潟は、この地域と葛西沖しかない。かつては、多摩川中流河川敷には、個体数は少ないものの春と秋の渡りの期間にはシギ・チドリ類がみられていたが、1995年には6種、1996年には7種しか記録されていない(表5、6)。河口域には、それでも1996年に20種が記録されている(表3)。河口部では、チドリ類では、シロチドリが多い(大作, 1981)。渡りの時期には、コチドリが少数みられるが、イカルチドリは稀である。日本野鳥の会、1977によると川崎市丸子橋よりコチドリとシロチドリがほぼ同数となり、丸子橋より上流では、シロチドリは減少し、代わってイカルチドリが多くなるという。ただし、現在、イカルチドリやコチドリの繁殖場所などが減少しているために、これほど顕著なチドリ類の分布をみることができるかどうかは疑問である。中流域でもイカルチドリやコチドリの個体数はそれほど多くなく、イソシギなども確実に繁殖しているかどうかは疑問である。また、河口域では、湿地に生息するアオアシシギや河川に飛来するイソシギ、クサシギなどの個体数は少ない。また、黒田, 1908によると、ケリは群れをなしているとされているが、この種は関東地方では個体数は少なくなっている。なお、繁殖しているシギ・チドリ類は1種もない。ハマシギやシロチドリが冬期にみられ、稀にハジロコチドリやセイタカシ

ギが越冬することもあったが、これらの種の越冬個体数は減少している(桑原,1992)。ユリカモメやセグロカモメは、年々増加傾向にあることは、前述のとおりであるが、これらのカモメ類はシギ・チドリ類が採食する干潟基底面で休息している。現在、ハマシギやシロチドリの越冬期の採食場所は、カモメ類によって占有されてしまった。さらに、カモメ類はシギ・チドリ類が捕らえた底生動物などを奪い取る。カモメ類の個体数の激増、特にユリカモメの個体数の増加が、ハマシギやシロチドリの越冬数を減少させた一因となっている。

首都圏では湿地や草地は減少しており、それにともないヒバリやオオヨシキリなどの普通種の繁殖環境が激減している。草地性のウズラや湿地性のタマシギといった種は、首都圏では極めて稀となってしまう、多摩川河口域では記録されていない。オオジュリンなどの個体数も全国的に減少しているという。また、シギ・チドリ類の種数、個体数は、千葉県習志野市谷津干潟や千葉県木更津市の小櫃川河口域の干潟などに比べると少なかった。しかし、東京湾に飛来するシギ・チドリ類の保護を考える上では、この地域をぬきにしては考えられない。さらに、カモ類やカモメ類、アジサシ類などが数多くみられる干潟は、東京湾内では少なく、この河口域はこれらの水鳥の重要な生息場所となっている。湿地環境は、今後も保護していく必要がある。

2. 多摩川河口鳥類目録の作成

多摩川河口での鳥類の記録は、羽田鴨場や六郷川河口での採集記録が残されている(黒田,1919,1939)。羽田で繁殖するカワウが、カワウの1亜種として記載されたほか、ハシボソシロチドリやコシジロオオソリハシシギなどが採集により記載されている(黒田,1908,日本鳥学会,1974)。また、伊達源一郎氏によって羽田で採集された標本は、島根県立博物館等に伊達コレクション鳥類標本として保存された後、三瓶自然科学館に移管された(島根県立博物館,1978)。黒田以降の報告は少ない。多摩川流域の種に関しては、川崎市教育委員会,1985,1986や平林,1986,1987などの調査報告がある。桑原,1992のシギ・チドリ類、桑原ほか,1988のカモ

メ類に関する報告やハクセキレイなどの観察記録の報告もある(中村,1978,中村・岩本,1985)。河口での記録は、清棲,1980や高野,1981,1989、日本鳥類保護連盟,1988などに記録が公表されている。これらの記録は、箕輪ら,1991にまとめられたが、コスズガモやニシトウネンなどの迷鳥はまだ参考種にとどめられていた。箕輪ら,1991以降にも河口域で新たに記録された種があるにもかかわらず、これらの記録はまとめられていない(箕輪ら,1996)。本報告では、箕輪ら,1991に準じ、多摩川河口域での報告や採鳥記録などを著者らの観察記録とともにまとめ一括した。

河口域で記録された種に関して、原則として、学名、和名、その種についての簡単な説明を付記した。各種についての説明文は、著者らが観察を始めた1980年以降から1996年12月現在までの生息状況である。この生息状況は表1~5などを参考にした。表1~5に掲載されている詳細な観察記録に関しては、説明では記載していない。さらに、1980年以前の記録については、データの入手が困難であったため記述していない。

学名は、日本鳥類目録第5版(日本鳥学会,1974)にしたがい、日本鳥類目録第5版に記載されていない種については高野伸二,1989にしたがった。説明文にその種の観察記録を古い順に日、月、年、性別、成鳥(Ad)、幼鳥(J)、夏羽(SP.)、冬羽(WP.)、羽数などを記した。成鳥になるまで数年要する種に関しては、若鳥などと記載した。カッコ()の中に出現場所、および観察者、引用文献などを順に記した。

出現場所は、図1の大師橋より下流のst.1-3を「A」とし、上流のst.4-5を「B」とした。川崎区浮島より観察した場所は浮島と記した。黒田,1908,1919などで羽田、羽田鴨場、六郷川河口と記載されている観察例は、その地名を記載した。羽数に関しては、記録のある例について記した。正確に数えられない観察例は、数羽(1~9羽)を+、数十羽(10~99羽)を++、数百羽(100羽以上)を+++とし、表中に記載した。文献の種に関しては、データとその引用文献を併記した。

日本野鳥の会神奈川県支部報の“はばたき”

については、リスト中に観察者と支部報のNo. を記した。引用した神奈川県支部報は、No. 139、141、148、150、162、163、165、168、172、174、178、181、186、191、193、194、195、196、197、200、204、211、213、215である。観察者、引用文献等の記述のない例は著者らの記録である。

また、識別が極めて難しいコスズガモの雌、ニシトウネンの冬羽などは正式な報告がないため、本報告では参考記録にとどめた。ニシセグロカモメやカナダカモメについては中村ほか、1988などに記載されているが、本種とセグロカモメの各亜種の識別同定が極めて難しく（日本野鳥の会記録委員会、1989）、本報告では保留とした。また、出現日の記載が十分でない種の記録なども参考記録とした。参考記録として取り扱った種は、ヒシクイ、ニシセグロカモメ、カナダカモメ、ヒメクイナ、ヒクイナの5種である。

3. 多摩川河口鳥類目録

カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 PODICIPEDIDAE

1. カイツブリ *Podiceps ruficollis*

周年を通してみられるが、少ない。河口での繁殖記録はない。

2. ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis*

冬鳥。個体数は少ない。6. Mar. 1994 1羽、7. May. 1994 1羽 (A)。

3. カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus*

冬鳥。近年個体数が増えている。

ミズナギドリ目 PROCELLARIFORMES

ミズナギドリ科 PROCELLARIIDAE

4. オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas*

東京湾内では多いが、当地では1例のみ。12. Jun. 1989 1羽 (浮島沖)。

5. ハシボソミズナギドリ *Puffinus tenuirostris*

旅鳥。1例のみ。8. Jun. 1989 3羽 (浮島沖)。

ウミツバメ科 HYDROBATIDAE

6. コシジロウミツバメ *Oceanodroma leucorhoa*

1例のみ。24. May. 1987 (鈴木 牧、日本野鳥の会記録委員会、1987)。

ペリカン目 PELECANIFORMES

ウ科 PHALACROCORACIDAE

7. カワウ *Phalacrocorax carbo*

周年を通じてみられる。

8. ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

東京湾奥部では極めて稀である。島根県立博物館、1978の1例のほか3例のみ。6. Jun. 1934 ♀ (東京羽田：島根県立博物館、1978)、4. Aug. 1991 1羽 若鳥 (A：中州のカワウの群れの中にいた)、25. Oct. 1992 1羽 (A：中州)、18. Oct. 1994 1羽 (A：中州)。

コウノトリ目 CICONIIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

9. ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*

夏鳥。主に大師橋より上流のヨシ原でみられる。個体数は少ない。

10. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

周年を通してみられる。冬期に個体数は増加する (嶋田ら、1994)。近年、個体数は減少した。

11. ササゴイ *Butorides striatus*

秋の記録が多い。

12. アマサギ *Bubulcus ibis*

旅鳥。稀にみられ、個体数は少ない。15. Sep. 1987 1羽 WP. (A)、12. Jun. 1989 1羽 (B)、9. Oct. 1994 2羽 (A)、7. Oct. 1995 1羽 (A)。

13. ダイサギ *Egretta alba*

周年を通してみられる。夏から秋にかけて、個体数は増す。

14. チュウサギ *Egretta intermedia*

旅鳥。個体数は少ない。

15. コサギ *Egretta garzetta*

周年を通じてみられる。夏から秋の渡りの季節に、個体数が多い (嶋田ら、1994)。

16. カラシラサギ *Egretta eulophotes*

ごく稀。1羽でみられることが多く、6~7月の記録が多い。11. Jun. 1988 Ad 1羽 (高木武)、26. Jul. 1989 1羽 (A)、22. Jun. 1990 1羽 (A)、25. Jul. 1995 1羽 (A)、11. Jul. 1993 1羽 (A)、27. Oct. 1996 WP. 1羽。

17. クロサギ *Egretta sacra*

1例のみ。7. Aug. 1990 1羽 黒色型 (st.3: 干潟から河口方向へ飛び去る)。

18. アオサギ *Ardea cinerea*

周年を通してみられる。冬期、st.3の中州のヨシ原に多い。

ガンカモ目 ANSERIFORMES

ガンカモ科 ANATIDAE

(参考) ヒシクイ *Anser fabalis*

黒田,1908に冬、群れをなしているとの記載はあるが、観察日等の記録は掲載されていない。

19. コクガン *Branta bernicla*

清棲,1980の記載のみ。2. Jan. 1933 (大田区羽田: 清棲,1980)。

20. アカツシガモ *Tadorna ferruginea*

清棲,1980の記載のみ。17. Jan. 1918 (大田区羽田: 清棲,1980)。

21. ツクシガモ *Tadorna tadorna*

黒田,1939、清棲,1980の記載のみ。Jun. 1916 (大田区羽田: 黒田,1939、清棲,1980)。

22. オシドリ *Aix galericulata*

5例のみ。1. Nov. 1987 ♂1羽 ♀1羽 (A)、18. Dec. 1988 ♂1羽 (B)、20. Oct. 1989 ♀1羽 (支部報211)、29. Oct. 1989 ♀1羽 (B: 内藤典子、橋本葉子)、18. Jan. 1992 ♂1羽 ♀2羽 (A)。

23. マガモ *Anas platyrhynchos*

冬鳥。個体数も多く、普通にみられる。

24. カルガモ *Anas poecilorhyncha*

留鳥。川原で繁殖している。繁殖期にはヒナをよく観察する。個体数も多い。

25. コガモ *Anas crecca*

冬鳥。普通にみられる。1980年代は、個体数も多かったが、1990年以降減少した。6. May. 1995 (B)、29. Apr. 1996 (B)。

アメリカコガモ *Anas crecca carolinensis*

17. Feb. 1916 ♂1羽 (大田区羽田: 清棲,1980)、15. Mar. 1926 ♂2羽 (大田区羽田: 清棲,1980)、9. Mar. 1926 ♂1羽 (東京羽田: 黒田,1939)。

26. トモエガモ *Anas formosa*

稀。2例のみ。18. Dec. 1988 ♂3羽 (A: 干潟でコガモとともに休息していた)、27. Sep. 1993 eclipse 1羽。

27. ヨシガモ *Anas falcata*

冬鳥。個体数は少ない。東京湾で個体数は急激に減少している。12. Oct. 1989 eclipse 2羽 (A)、19. Nov. 1989 ♂1羽 (A: 伊藤香)、20. Nov. 1993 1羽 (A)、12. Dec. 1993 1羽 (A)、7. Oct. 1995 2羽 (A)、12. Dec. 1996 ♂1羽 ♀1羽 (A)。

28. オカヨシガモ *Anas strepera*

冬鳥。個体数は少ない。

29. ヒドリガモ *Anas penelope*

冬鳥。近年増えている。

30. アメリカヒドリ *Anas americana*

黒田,1939、清棲,1980による記載があるだけである。4. Dec. 1908 (大田区羽田: 清棲,1980)、16. Jan. 1918 (大田区羽田: 清棲,1980)、30. Dec. 1928 (大田区羽田: 清棲,1980)、5. Dec. 1934 (大田区羽田: 清棲,1980)、黒田,1939。

31. オナガガモ *Anas acuta*

冬鳥として普通にみられる。カモ類の中でも、スズガモについて個体数が多い。

32. シマアジ *Anas querquedula*

旅鳥。9月の記録が多いが、1羽でみられることが多い。20. Sep. 1987 1羽 (A)、1. Jun. 1988 1羽 (A)、26. Sep. 1993 1羽 (A)、10. Sep. 1994 1羽 (A)。

33. ハシビロガモ *Anas clypeata*

冬鳥。個体数は少ない。6. Jan. 1994 ♂1羽 (A)、16. Jan. 1994 1羽 (A)。

34. アカハシハジロ *Netta rufina*

1例のみ。14. Feb. 1988 ♂1羽 (渡部良樹、日本野鳥の会記録委員会,1988)。

35. ホシハジロ *Aythya ferina*

冬鳥。普通にみられ、個体数も多い。

36. オオホシハジロ *Aythya valisineria*

1例のみ。15. Feb. 1997 ♂1羽 (干潟で約2,000羽のスズガモの群れの中で休息していた)。

37. アカハジロ *Aythya baeri*

極めて稀。黒田,1939、清棲,1930による記載があるだけである。23. Nov. 1908 (大田区羽田: 清棲,1980)、1. Nov. 1909 (大田区羽田: 清棲,1980)、22. Mar. 1912 (大田区羽田: 清棲,1980)、Mar. 1914 (大田区羽田: 清棲,1980)、Nov. 1932 (大田区羽田: 清棲,1980)、黒田,1939、6. Mar. 1990 ♀1羽 (A: 支部報215)。

38. キンクロハジロ *Aythya fuligera*

冬鳥。普通にみられ、個体数も多い。15. Jan. 1994 (st.5)。

39. スズガモ *Aythya marila*

冬鳥。st.1で数千羽がみられ、カモ類の中で最も個体数が多い。河口部に多いが、大師橋上流では少ない。1988年1月6日に河口で大量に死亡した (CBMZB-881-90, 946-56, 1041-50)。

40. コスズガモ *Aythya affinis*

冬鳥。極めて稀 (氏原, 1987, 1988)。16. Nov. 1986 ♂1羽 (A)、9. Jan. 1988 ♂1羽、23. Mar. 1988 ♂1羽 (A)。

41. ビロードキンクロ *Melanitta fusca*

黒田, 1939の1例のみ。17. Oct. 1920 ♂1羽 (羽田鴨場: 黒田, 1939)。

42. ホオジロガモ *Bucephala clangula*

近年の記録は4例のみ。1980年以降、個体数は減少し、観察記録も少なくなった。8. Nov. 1988 5羽 (A: 支部報200)、18. Dec. 1988 ♀1羽 (A)、19. Jan. 1990 ♀1羽 (A)、25. Jan. 1992 ♂1羽 (A)。

43. ミコアイサ *Mergus albellus*

稀。記録、個体数ともに少ない。

44. ウミアイサ *Mergus serrator*

1例のみ。13. Nov. 1986 ♀1羽 (A: 支部報181)。

45. カワアイサ *Mergus merganser*

2例のみ。24. Dec. 1987 ♀1羽 (A: 支部報191)、1. 29. Jan. 1996 ♀1羽 (A)。

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

46. ミサゴ *Pandion haliaetus*

10~11月の記録が多い。個体数は少ない。

47. トビ *Milvus migrans*

冬鳥。個体数は少ない。

48. オオタカ *Accipiter gentilis*

1例のみ。12. Jan. 1997 1羽 (A: 干潟上空、ハヤブサに追われ、羽田方向へ飛び立った)。

49. ツミ *Accipiter gularis*

1例のみ。14. Oct. 1995 ♀1羽 (快晴、早朝、堤防の桜並木から飛び立ち、上空高くに帆翔し、飛び去った)。

50. ノスリ *Buteo buteo*

1例のみ。5. Jan. 1995 1羽 (A: 中州の上空を

帆翔し、東京湾方向へ飛び去った)。

51. サシバ *Butastur indicus*

1例のみ。27. Aug. 1994 1羽 (A: 大師橋上空を帆翔し、次第に高度を上げた後、飛び去った)。

52. チュウヒ *Circus aeruginosus*

冬鳥。個体数は少ない。2. Apr. 1995、3. Dec. 1995 (A)。

ハヤブサ科 FALCONIDAE

53. ハヤブサ *Falco peregrinus*

冬鳥。個体数は少ない。12. Jan. 1997 1羽 (A: 干潟上空、オオタカを追う)。

54. コチョウゲンボウ *Falco columbarius*

稀。20. Jan. 1986 1羽 ♀Type (A)、12. Feb. 1990 1羽 ♀Type (A: 内藤典子・井上裕司)、19. Feb. 1990 1羽 ♀Type (A: 干潟から殿町3丁目へ飛び去る)、18. Nov. 1995 ♀1羽、16. Nov. 1996 ♀1羽などの記録がある。

55. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

冬鳥。個体数は少ない。

ツル目 GRUIFORMES

クイナ科 RALLIDAE

56. クイナ *Rallina aquaticus*

冬鳥。個体数は少ない。6. Dec. 1991 1羽などの記録がある。

(参考) ヒクイナ *Porzana fusca*

黒田, 1908に記載があるが、記録は掲載されていない。

(参考) ヒメクイナ *Porzana pusilla*

黒田, 1908に記載があるが、記録は掲載されていない。

57. バン *Gallinula chloropus*

留鳥。川原で繁殖している。ヒナ、幼鳥が繁殖期にみられる。冬期は少ない。15. Jan. 1994 (B)、6. May. 1995 (B)。

58. オオバン *Fulica atra*

冬鳥。個体数は少ない。1980年以降は、2例のみ。20. Jul. 1986 (A: 平林, 1987)、5. Nov. 1990 1羽。

チドリ目 CHARADRIIFORMES

ミヤコドリ科 HAEMATOPODIDAE

59. ミヤコドリ *Haematopus ostralegus*

極めて稀。清棲,1980による1例の他、3例が知られる。29. Jul. 1957 (東京都羽田:清棲,1980)、21. Aug. 9. Sep. 1981 1羽 (石江進:支部報150)、2. Jul. 1996 1羽。

チドリ科 CHARADRIIDAE

60. ハジロコチドリ *Charadrius hiaticula*

旅鳥。稀。冬鳥として1~2羽が越冬した年がある (桑原,1992)。

61. コチドリ *Charadrius dubius*

夏鳥。3月から9月にかけてみられるが、繁殖の記録はない。

62. イカルチドリ *Charadrius placidus*

1980年以降、4例のみ。21. Dec. 1986 (A:平林,1986)、15. Feb. 1987 1羽 (A:平林,1987)、25. Aug. 1987 1羽 (A:支部報186)、12. Aug. 1989 2羽。

63. シロチドリ *Charadrius alexandrinus*

留鳥。ただし、繁殖記録はない。3~4月の春の渡りの季節に多い。

ハシボソシロチドリ *Charadrius alexandrinus alexandrinus*

黒田,1919の記録のみ。22. Mar. 1917 1羽採集 (黒田,1919)。

64. メダイチドリ *Charadrius mongolus*

旅鳥。3月から10月にかけてみられ、個体数も多い。6. May. 1995 (B:干潟)。

65. オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii*

旅鳥。稀。個体数は少ない。27. Aug. 1995 羽数不明 (A)。

66. ムナグロ *Pluvialis dominica*

旅鳥。主に5月から9月にかけてみられる。

67. ダイゼン *Pluvialis squatarola*

旅鳥。主に春と秋の渡りの季節にみられる。冬期に1~2羽みられることがあるが、確実な越冬記録はない。6. May. 1995 (B:干潟)。

68. ケリ *Microsarcops cinereus*

稀。10. Oct. 1995 J 1羽 (st.2:河口付近の干潟で休息していた)、8. Mar. 1996 1羽 (st.3:干潟で休息していた)、3. Sep. 1996 1羽 (st.3:干潟で休息していた)。

69. タゲリ *Vanellus vanellus*

稀。黒田,1919の記載の他、1980年以降は、1例のみ。12. Feb. 1989 2羽 (A:支部報178)。

シギ科 SCOLOPACIDAE

70. キョウジョシギ *Arenaria interpres*

旅鳥。春と秋の渡りの季節にみられる。

71. ヒメハマシギ *Calidris mauri*

極めて稀。1986年8月から9月にかけて記録されている。17. Aug. 1986 1羽 (大師河原:平林,1986)、6. Sep. 1986 J 1羽 (A)、7. Sep. 1986 1羽 (A:平林,1987)、18. Oct. 1987 1羽 WP.などの記録がある。

72. ニシトウネン *Calidris minuta*

稀。24. Aug. 1987から28. Aug. 1987 1羽 (A:支部報204)、9. Oct. 1985 1羽、31. Mar. 1989 1羽 (A)、7. Sep. 1986 1羽 (A)、25. Oct. 1992 1羽 (A)、8. Sep. 1995 1羽 (A)などの記録がある。

73. トウネン *Calidris ruficollis*

旅鳥。主に春と秋の渡りの季節にみられる。個体数は多い。6. May. 1995 (B:干潟)。

74. ヒバリシギ *Calidris subminuta*

稀な旅鳥。近年、東京湾で個体数が減少している。12. Aug. 1984 1羽 (A:秋元文雄、日本野鳥の会神奈川支部,1986)、6. Aug. 1985 1羽 (A)、14. Aug. 1987 1羽 (A)、26. Aug. 1987 1羽、CBMZB-586 (多摩川河口右岸、川崎市側)、5. Sep. 1993 羽数不明 (A)。

75. オジロトウネン *Calidris temminckii*

旅鳥。秋から冬にかけて稀にみられる。

76. ヒメウズラシギ *Calidris bairdii*

1例のみ。11. Sep. 1984 1羽 (A:鈴木茂也、日本野鳥の会神奈川支部,1986)。

77. ウズラシギ *Calidris acuminata*

旅鳥。近年、東京湾で個体数が減少している。10. May. 1981 2羽 (A:岩本重治、日本野鳥の会神奈川支部,1986)、15. Aug. 1985 4羽 (A)、9. Aug. 1987 (A:支部報186)、19. Sep. 1992 1羽 (A)、11. Aug. 1995 Ad SP.1羽 (A)などの記録がある。

78. ハマシギ *Calidris alpina*

旅鳥及び冬鳥。夏期の記録もある。近年、越冬数が減少している。6. May. 1995 (B:干潟)。

79. サルハマシギ *Calidris ferruginea*

旅鳥。個体数は少ない。27. Aug. 1995 J 1羽

- (A)。
80. コオバシギ *Calidris canutus*
 13. Aug. 1983 SP.2羽 (A)、1. Sep. 1984 2羽 (A: 日本野鳥の会神奈川支部, 1986)、28. Aug. 1987 1羽 (A: 支部報186)、1. Sep. 1987 2羽 (A: 支部報186)、15. Aug. 1993 1羽 (A)、27. May. 1995 Ad SP.1羽。
81. オバシギ *Calidris tenuirostris*
 稀。東京湾で個体数が減少しており、個体数は少ない。8. Sep. 1990 72羽 (A)、17. Apr. 1994 (A)、1. Sep. 1996 1羽 (A) などの記録がある。
82. ミユビシギ *Crocethia alba*
 稀。個体数は少ない。25. May. 1985 Ad SP.1羽 (A)、10. Aug. 1986 1羽 (A)、12. Aug. 1994 1羽 (A) などの記録がある。
83. ヘラシギ *Eurynorhynchus pygmeuescs*
 極めて稀。個体数は少なく、複数羽で見られることはほとんどない。9. Sep. 1984 1羽 (A) などの記録があるだけである。
84. エリマキシギ *Philomachus pugnax*
 稀。近年、東京湾で個体数が減少している。28. Aug. 1994 1羽 (A)、23. Aug. 1995 ♀1羽 (A)、17. May. 1996 ♀1羽 (A) などの記録がある。
85. キリアイ *Limicola falcinellus*
 稀。個体数は少ない。8~9月にかけて幼羽の個体の観察記録が多い。5, 11. Sep. 1993、27. Aug. 1995、9. Sep. 1995 25羽などの記録がある。
86. オオハシシギ *Limnodromus scolopaceus*
 極めて稀 (石江・石江, 1980)。1983~84年の冬に2羽、1984~85年の冬に3羽が越冬した。27. Jan. 1984 WP.2羽 (日本野鳥の会神奈川支部, 1996)。
87. シベリアオオハシシギ *Limnodromus semipalmatus*
 極めて稀。
88. ツルシギ *Tringa erythropus*
 黒田, 1919に記録されている他、数例がある。27. Mar. 1918 9羽 (六郷川河口: 黒田, 1919)、12. Apr. 1918 35羽 (六郷川河口: 黒田, 1919)、15. Sep. 1985 2羽 (A)。
89. アカアシシギ *Tringa totanus*
 稀。16. Nov. 1985 1羽 (A: 干潟で採食していた)、4. Aug. 1987 1羽 (A: 干潟で採食していた)、6. Sep. 1992 2羽 (A: 干潟で採食していた) などの記録がある。
90. コキアシシギ *Tringa flavipes*
 当地では2例のみ。1987年9月から、1988年1月に東京大田区大井埠頭の汐入り池との間に渡来していた個体と思われる1羽がみられている。幼羽から1Wに換羽した。2. Oct. 1986 1羽 (A)、19. Sep. 1987 J 1羽 (六郷橋下流: 栗崎鋼、日本野鳥の会記録委員会1987)、10. Jan. 1988 1羽 (A: 支部報191)。
91. コアオアシシギ *Tringa stagnatilis*
 稀。個体数も少ない。6. Sep. 1987 5羽 (A)、10. Jan. 1988 4羽 (A)、12. Aug. 1990 1羽 (A: 干潟で採食していた) などの記録がある。
92. アオアシシギ *Tringa nebularia*
 旅鳥。春と秋の渡りの季節にみられる。個体数は少ない。6. May. 1995 (B: 干潟)。
93. カラフトアオアシシギ *Tringa guttifer*
 極めて稀 (石江・石江, 1980)。11. Sep. 1979 1羽 (多摩川河口: 高野ら, 1981)、27. Aug. 1983 1羽 (A)。
94. クサシギ *Tringa ochropus*
 黒田, 1919の他、1980年以降は1例のみ。17. Aug. 1986 1羽 (A: 平林, 1987)。
95. タカブシギ *Tringa glareola*
 稀。9. Sep. 1995 1羽 (A: 干潟で採食や休息をしていた)。
96. メリケンキアシシギ *Tringa incana*
 1例のみ。27. Aug. 1994 1羽 (A: 干潟でキアシシギ約40羽の群れの中にいた)。
97. キアシシギ *Tringa brevipes*
 旅鳥。5~9月にかけて春と秋の渡りの季節にみられる。
98. イソシギ *Tringa hypoleucos*
 周年を通してみられる。個体数は少なく、河口部の干潟での越冬記録はない。
99. ソリハシシギ *Xenus cinereus*
 旅鳥。5~10月にかけてみられる。個体数は少ない。
100. オグロシギ *Limosa limosa*
 旅鳥。主に秋の渡りの季節に見られる。大師橋より上流の記録が多い。27. Aug. 1994 (A)。
101. オオソリハシシギ *Limosa lapponica*
 旅鳥。春と秋の渡りの季節にみられる。27. Aug. 1995 (A)。

コシジロオソリハシギ *Limosa lapponica menzbieri*
1945年、羽田での記録のみ（日本鳥学会, 1974）。

102. ダイシャクシギ *Numenius arquatesca*
稀。個体数も少なく、越冬記録もない。

103. ホウロクシギ *Numenius madagascariensis*
旅鳥。東京湾岸では、広大な干潟が減少したため、近年個体数や記録数は急激に少なくなっている。定期的にみられる干潟は谷津干潟くらいであり、当地での観察個体数は少なく、ほとんどが1羽である。21. Mar. 1993 1羽 (A)、24. May. 1994 1羽 (A)、11. May. 1996 7羽 (A: 干潟で採食や休息をしていた)。

104. チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*
旅鳥。個体数は少ない。6. May. 1995 (B: 干潟)。

105. ヤマシギ *Scolopax rusticola*
羽田鴨場と黒田, 1919にだけ記録されている。
14. Mar. 1910 1羽、17. Dec. 1914 1羽、4. Nov. 1918 1羽 (羽田鴨場: 黒田, 1919)。

106. タシギ *Gallinago gallinago*
冬鳥。主に大師橋より上流でみられるが、少ない。15. Jan. 1994 (B: 干潟)。

107. オオジシギ *Gallinago hardwickii*
2例のみ。東京湾岸では湿地が減少したため、近年個体数や記録数は急激に少なくなっている。15. Aug. 1993 1羽 (A: 干潟のヨシ原近くでみられた)、13. Apr. 1996 2羽 (A)。

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

108. セイタカシギ *Himantopus himantopus*
稀。個体数は少ない。1989~1990年冬、1996~1997年冬にかけて越冬した。

ヒレアシシギ科 PHALAROPODIDAE

109. アカエリヒレアシシギ *Phalaropus labatus*
稀。22. May. 1985 1羽 (A)、21. May. 1989 1羽 (A)、1. Jun. 1996 1羽 (A)。

ツバメチドリ科 GLAREOLIDAE

110. ツバメチドリ *Glareola maldivarum*
稀。19. Jul. 1987 J 1羽 (A: st.3、降雨中、干潟で休息していた)。

カモメ科 LARIDAE

111. ボナパルトカモメ *Larus philadelphia*

1例のみ。1985年12月29日から1986年2月27日にかけて幼鳥1羽 (1W) が越冬した (臼井, 1986、氏原, 1986、桑原ら, 1988)。

112. ユリカモメ *Larus ridibundus*

冬鳥。個体数は多い。夏にみられることもある。1980年代はせいぜい数百羽であったが、近年、個体数は増加しており、数千羽がみられる。

113. セグロカモメ *Larus argentatus*

冬鳥。10~5月にかけて普通にみられる。1980年代以降、個体数は増加している。

114. オオセグロカモメ *Larus schistisagus*

冬鳥。個体数は少ない。

115. ワシカモメ *Larus glaucescens*

3例のみ。4. May. 1990 1W. 1羽 (六郷水門: 高木昌興)、29. Nov. 1992 若鳥1羽 (st.3: 中州で休息)、9. Dec. 1995 Ad 1羽 (st.3: 中州で休息)。

116. シロカモメ *Larus hyperboreus*

冬鳥。個体数は少ない。26. Apr. 1988 1羽 (A)、20. Feb. 1994 1羽 (A)、9. Jan. 1995 1羽 (A)。

117. カモメ *Larus canus*

冬鳥。2月から4月の春の渡りの季節に個体数が多い。

118. ウミネコ *Larus crassirostris*

周年を通してみられる。特に、夏から秋にかけて、特に個体数が多く、冬期の個体数は少ない。1980年代以降個体数は増加している。

119. ズグロカモメ *Larus saundersi*

稀。越冬記録もある。1990年以降は、10. May. 1993 1羽 (A)、1. Dec. 1996 1羽 (A: ユリカモメとともに、干潟で採食していた)、5. Nov. 1995 1羽 (A: 干潟の上空を飛翔したり、干潟で休息したりしていた) などの記録がある。

(参考) ニシセグロカモメ *Larus fuscus*

極めて稀。識別点が明確でないため参考種とした。Oct~Nov. 1986 1羽 (A: 中村ほか, 1988)、6. Nov. 1987 (A: 中村ほか, 1988)、16. Nov. 1987 1羽 (石江馨, 1988)、18. Oct. 1988 1羽 (支部報200)。

(参考) カナダカモメ *Larus thayeri*

交雑種やセグロカモメの記載などが曖昧であり、本邦における資料が不足しており、野外識別の識別点が明確でないなどの理由により参

考種とした。稀。18. Nov. 1995 1W.1羽 (A: 中州で、セグロカモメやユリカモメとともに休息していた)。

120. ハジロクロハラアジサシ *Sterna leucoptera*
稀。1. Jul. 1985 1羽 (A)、7. Aug. 1990 J 1羽 (A) などの記録がある。

121. クロハラアジサシ *Sterna hybrida*
稀 (石江・石江, 1982)。7. Jun. 1988 Ad 1羽 (高木武)、17. Jun. 1991 Ad SP.2羽 (A)、19. May. 1996 Ad SP.1羽 (A)、29. Jun. 1996 Ad SP.2羽 (A)。

122. オニアジサシ *Sterna caspia*
極めて稀。1985年12月から1986年3月にかけてみられた1例のみ。23. Dec. 1985、24. Dec. 1985、26. Dec. 1985、6. Mar. 1986 (氏原巨雄、日本野鳥の会神奈川支部, 1986)。

123. ハシブトアジサシ *Sterna nilotica*
極めて稀。5~9. Sep. 1981 1羽 (高野ほか, 1981、石江・石江, 1982)、8. Jun. 1986 SP.1羽 (A: 日本野鳥の会神奈川支部, 1986)、23. Sep. 1986 WP.1羽、10. Oct. 1995 WP.1羽、15. Oct. 1995 1羽 (A)。

124. アジサシ *Sterna hirundo*
旅鳥。春と秋の渡りの季節に普通みられる。年により個体数の変動が多い。

125. キョクアジサシ *Sterna paradisaea*
極めて稀。1例のみ。7. Aug. 1988 1羽若鳥 (A: 氏原巨雄、支部報197)。

126. ベニアジサシ *Sterna dougallii*
極めて稀。1例のみ。1. Jun. 1986 1羽 (A: 氏原巨雄、日本野鳥の会神奈川支部, 1986)。

127. エリグロアジサシ *Sterna sumatrana*
1例のみ。25. Jul. 1995 1羽 (st.3の中州で、コアジサシ約500羽の群れの中で休息していた)。

128. コアジサシ *Sterna albifrons*
夏鳥。繁殖記録はない。8月から9月に個体数は多い。6. May. 1995 (B: 干潟)。

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

129. キジバト *Streptopelia orientalis*

留鳥。普通にみられる。

130. アオバト *Sphenurus sieboldii*

極めて稀。1例のみ。12. Sep. 1993 ♂1羽 (A:

桜の木にとまり、飛び立った後、川の水を飲んだ)。

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 CUCULIDAE

131. ツツドリ *Cuculus saturatus*

極めて稀。1例のみ。25. Sep. 1993 (川崎区殿町3丁目: 赤色幼鳥1羽桜並木でみられた)。

アマツバメ目 APODIFORMES

アマツバメ科 APODIDAE

132. アマツバメ *Apus pacificus*

極めて稀。1例のみ。22. Oct. 1994 10羽以上 (A: 夕方、干潟から住宅街の方向へ低空で飛び回っていた)。

ブッポウソウ目 CORACIIFORMES

カワセミ科 ALCEDINIDAE

133. カワセミ *Alcedo atthis*

稀。個体数は少ない。29. Jun. 1991 1羽 (A)、26. Sep. 1993 1羽 (A)、14. Aug. 1994 1羽 (A)。

キツキ目 PICIFORMES

キツキ科 PICIDAE

134. コゲラ *Dendrocopos kizuki*

稀。2例のみ。1989年以前の記録はない。21. May. 1989 1羽 (川崎区殿町3丁目)、1. Dec. 1989 1羽 (川崎区殿町3丁目)。

スズメ目 PASSERIFORMES

ヒバリ科 ALAUDIDAE

135. ヒバリ *Alauda arvensis*

留鳥。以前は普通にみられていた。近年、観察記録や個体数は、少なくなった。

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

136. ショウドウツバメ *Riparia riparia*

1例のみ。13. Aug. 1993 4羽 (A: 干潟の上空を飛び、東京湾方向へ飛び去った)。

137. ツバメ *Hirundo rustica*

夏鳥。普通にみられる。

138. イワツバメ *Delichon urbica*

夏鳥。1980年代は、大師橋に営巣していた。1983年以降増加したと思われる(浜口・端山, 1984)。ただし、ここ数年、1994年以降は、営巣していないため、記録数も少ない。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

139. ハクセキレイ *Motacilla alba*

留鳥。1989年に工場で繁殖した。公園、人家、干潟などで普通にみられる。

140. セグロセキレイ *Motacilla grandis*

稀。中流から上流ではよくみられるが、記録も少ない。15. Oct. 1995 1羽 (A)。

141. ビンズイ *Anthus hodgsoni*

冬鳥。稀。22. Feb. 1994 1羽 (A: ヨシ原の中でみられた)。

142. ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus*

清棲, 1980による3例の記録のみ。26. Sep. 1958 ♂1羽 (大田区羽田: 清棲, 1980)、27. Sep. 1953 ♂1羽 (清棲, 1980)、4. Oct. 1953 ♀1羽 (清棲, 1980)。

143. タヒバリ *Anthus spinoletta*

冬鳥。干潟で普通にみられる。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

144. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

留鳥。普通にみられる。

モズ科 LANIIDAE

145. モズ *Lanius bucephalus*

冬鳥。個体数は少ない。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

146. ノゴマ *Erithacus calliope*

旅鳥。1例のみ。20. Apr. 1996 ♂Ad 1羽 (A: 桜並木の下生えで採食していた)。

147. ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus*

冬鳥。個体数は少ない。

148. ノビタキ *Saxicola torquaescta*

1例のみ。16. Oct. 1991 1羽 (A: ヨシ原の中でみられ、時々ヨシの穂先にとまる)。

149. イソヒヨドリ *Monticola solitarius*

冬鳥。テトラポッドや堤防で時々みられる。

河口部での記録が多い。

150. トラツグミ *Turdus dauma*

1例のみ。4. Nov. 1996 1羽 (A: 堤防の桜並木でみられ、河口 st.1方向へ移動した)。

151. アカハラ *Turdus chrysolaus*

冬鳥。記録は少ない。1996-1997年の越冬期の観察例が多い。5. Nov. 1994 ♂1羽 (A: 桜並木でみられた)、12. Dec. 1996 1羽 (A: 桜並木でみられた)。

152. シロハラ *Turdus pallidus*

冬鳥。記録は少ない。5. Nov. 1996 ♂1羽 (A: 桜並木でツグミとともにみられた)。

153. ツグミ *Turdus naumanni*

冬鳥。11~5月にかけて普通にみられる。

ウグイス亜科 SYLVIINAE

154. ウグイス *Cettia diphone*

冬鳥。11~4月にかけてヨシ原で普通にみられていたが、近年、個体数は減少した。

155. オオセッカ *Megalurus pryeri*

清棲, 1980の記載のみ。13. Feb. 1951 ♂1羽 (大田区羽田: 清棲, 1980)。

156. コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*

旅鳥。5月の記録があるが、まだ繁殖の記録はない。1. May. 1989 ♂Ad 1羽 Song (B)、25. May. 1986 ♂Ad 1羽 Song (B: 小林美奈子)、27. May. 1995 ♂Ad 2羽 Song (A) などの記録がある。

157. オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*

夏鳥。4~9月にかけてヨシ原で普通にみられる。

158. メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

旅鳥。秋期の記録が多い。7. Sep. 1986 1羽 (A: 殿町三丁目の公園の柳の木にとまっていた) などの記録がある。

159. エゾムシクイ *Phylloscopus tenellipes*

1例のみ。2. Jun. 1993 ♂Ad 1羽 (A: 1羽がさえずっていた)。

160. センダイムシクイ *Phylloscopus occipitalis*

旅鳥。春・秋の渡りの期間にみられる。5. Sep. 1995 1羽 (A: 桜の木で採食していた)、30. Aug. 1996 3羽 (A: 桜の木で採食していた) などの記録がある。

161. セッカ *Cisticola juncidis*

留鳥。ヨシ原で普通にみられるが、冬期の記

録は少ない。

ヒタキ亜科 MUSCICAPINAE

162. キビタキ *Ficedula narcissina*

旅鳥。秋期に多い。22. May. 1985 ♂若鳥1羽 (支部報172)、18. Oct. 1988 ♀1羽 (支部報200)、などの記録がある。

163. オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

1例のみ。30. Sep. 1995 ♀1羽 (A:キビタキ♀と共に桜の木でみられた)。

164. コサメビタキ *Muscicapa latirostris*

旅鳥。稀。2. Oct. 1994 1羽 (A:公園付近を飛び回っていた)、24. Sep. 1995 1羽 (A:桜の木で休息していた)などの記録がある。

ツリスガラ科 REMIZIDAE

165. ツリスガラ *Remiz pendulinus*

冬鳥。1994年に記録されて以来、ヨシ原で普通にみられるようになった。15. Jan. 1994 4羽 (B:st.5,ヨシ原)、27. Feb. 1995 1羽 (A:ヨシ原の中でみられた)、8. Mar. 1995 30羽以上 (A:ツイーン、ツイーンと鳴きながら、ヨシ原の中で採食していた)、2. Apr. 1995 5羽 (A:ヨシ原)などの記録がある。

シジュウカラ科 PARIDAE

166. コガラ *Parus montanus*

1例のみ。30. Apr. 1989 1羽 (A:いすゞ工場のとりの電線に止まり、鳴いて飛び去る。高木昌興)。

167. ヒガラ *Parus ater*

極めて稀。1例のみ。1. May. 1989 1羽 (BからAへ飛び去る)。

168. ヤマガラ *Parus varius*

黒田,1908などのほかは、1例のみ。31. Aug. 1990 1羽 (A)。

169. シジュウカラ *Parus major*

留鳥。人家付近で普通にみられる。秋から冬にかけてはヨシ原にも生息する。

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

170. メジロ *Zosterops japonica*

冬鳥。人家、公園などで普通にみられる。

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

171. ホオジロ *Emberiza cioides*

冬鳥。ヨシ原で普通にみられる。

172. コジュリン *Emberiza yessoensis*

1例のみ。5. May. 1987 1羽 (B:右岸のヨシ原にとまる。小林美奈子)。

173. ホオアカ *Emberiza fucata*

1例のみ。27. Apr. 1980 (支部報141)。

174. カシラダカ *Emberiza rustica*

冬鳥。個体数、記録ともに少ない。

175. アオジ *Emberiza spodocephala*

冬鳥。オオジュリンなどとともに関体数も多い。ヨシ原、公園等でみられる。

176. クロジ *Emberiza variabilis*

2例のみ。28. Apr. 1993 ♂1羽 (A:st.5、河口近くの灌木の中でみられた)、22. Oct. 1996 ♂1羽 (A:桜並木の中でみられ、地上におりた)。

177. オオジュリン *Emberiza schoeniculus*

冬鳥。ヨシ原でよくみられ、個体数も多い。近年、ヨシ原の減少により生息域はせばまった。

アトリ科 FRINGILLIDAE

178. カワラヒワ *Carduelis sinica*

留鳥。人家、ヨシ原、干潟で普通にみられる。夏から秋にかけて個体数が多い。

179. マヒワ *Carduelis sinica*

1例のみ。21. Dec. 1996 7羽 (A:堤防近くの電線に止まる)。

180. シメ *Coccothraustes coccothraustes*

冬鳥。記録は少ない。12. Nov. 1989 1羽 (A:公園の街路樹でなっていた)、3. Feb. 1990 1羽 (A:ヨシ原にとまる)、23. Oct. 1994 1羽 (A)。

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

181. スズメ *Passer montanus*

留鳥。普通にみられ、個体数も多い。

ムクドリ科 STURNIDAE

182. コムクドリ *Sturnus philippensis*

1例のみ。7. Jul. 1996 ♂Ad 1羽 (A:ムクドリ10羽と共に電線に止まっていた)。

183. ムクドリ *Sturnus cineraceus*

留鳥。人家、ヨシ原、芝地、干潟などで普通にみられ、個体数も多い。

カラス科 CORVIDAE

184. カケス *Garrulus glandarius*

2例のみ。16. Oct. 1994 1羽 (A: 公園の桜並木で確認された)、28. Sep. 1996 1羽 (A: 公園の桜並木の中で確認された)。

185. オナガ *Cyanopica cyana*

留鳥。人家、公園などで普通にみられる。

186. ハシボソガラス *Corvus corone*

留鳥。普通にみられる。

187. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

留鳥。普通にみられる。

謝 辞

調査に際し、千葉県立中央博物館友の会の嶋田哲郎、金田彦太郎、木幡冬樹、玉川大学の大江 淳、高橋羽夕、菊田英孝、内藤典子、橋本葉子、井上裕司、千葉大学の阿部聖哉、青木正志、千葉中央博物館の小原千夏、東京農工大学の伊藤 香、舟久保 敏、高木 武の各氏の協力を得た。目録の作成にあたっては、平塚市立博物館の浜口哲一、神奈川県立博物館の中村一恵、東京農業大学の高木昌興、小林美奈子の各氏に御教示いただいた。日本野鳥の会神奈川県支部には、日本野鳥の会神奈川県支部報“はばたき”より各種の記録を引用させていただいた。資料の作成にあたり木曾野真紀、加藤典子、横地留奈子、の各氏に御協力いただいた。我孫子市鳥の博物館の時田賢一、斉藤安行の両氏には原稿を読んでいただいた。これらの方々に深く感謝の意を表したい。

要 約

多摩川の流域は東京都、山梨県、神奈川県3県にまたがる。下流は、東京都大田区と神奈川県川崎市の間を流れ、東京湾奥部にそそぎ込んでいる。工業化、都市化に伴い広大な湿地は失われたが、河口には中州や河川敷が形成されており、干潮時には小櫃川河口や富津、三番瀬に次ぐ規模の広い干潟がみられる。この多摩川河口域で記録された種のリストを作成した。

1996年12月までに記録された187種のうち、水鳥が全体の約70%を占めていた。その水鳥のうち最も種数が多く記載された目は、チドリ目で70種、次いでガンカモ目の27種、コウノトリ

目の10種であった。カイツブリ目、ツル目とミズナギドリ目が各3種であり、その他、ペリカン目の2種が記録された。陸鳥のうち最も多い目はスズメ目で53種が記載された。その他は、少なく、ワシタカ目10種、ハト目は2種、ブッポウソウ目、キツツキ目、ホトトギス目、アマツバメ目は1種しか記録されなかった。

水鳥の種数とともに個体数が多いことが、多摩川河口域の特徴であった。特に、多摩川河口では、カモ類とカモメ類が多いことは特筆できた。ただし、カモ類とカモメ類には個体数の変動が大きく、かつてみられた200~300羽のヨシガモの群れや、初冬に10,000~16,000羽のオナガガモはみられなくなった。さらに、ヒシクイなどの群れも消失した。関東周辺では、ウミアイサ、カワアイサは稀であるためか、個体数は少なく、ホオジロガモなどの記録も減少した。現在では、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモなどが普通にみられる。特に、ホシハジロやキンクロハジロ、スズガモは、個体数も多い。カモ類では、マガモ、カルガモ、コガモなどの *Anas* 属の種が上流の六郷干潟や羽田干潟 (B) に、スズガモやキンクロハジロなどの *Aythya* 属の種が下流の多摩川河口干潟 (A) に多い。

カモ類では、減少している種が多いが、カモメ類は近年個体数が激増している。夏から秋にかけてウミネコが、冬期はユリカモメやセグロカモメが数百から数千の単位でみられ、特に、ユリカモメの個体数は多く、春の渡りの時期には10,000羽を超えると考えられている。春と秋の渡りの期間にはシギ・チドリ類が渡りの中継地として干潟を利用した。キアシシギ、シロチドリ、メダイチドリ、トウネンなどのシギ・チドリ類がみられる。冬期には、ハマシギやシロチドリがみられ、稀にハジロコチドリやセイタカシギが越冬することもあった。渡りの時期には、コチドリが少数みられるが、イカルチドリは稀であった。カモメ類は、干潟に分布しており、シギ・チドリ類が採食する基底面を占有しており、このことが越冬個体数を減少させている一因と考えられた。

種数や個体数は、千葉県船橋市・市川市沖の三番瀬や千葉県木更津市の小櫃川河口域、習志野市の谷津干潟の干潟などに比べると少ない。しかし、カモ類やカモメ類、シギ・チドリ類な

どが数多くみられる干潟は、東京湾内では少なく、この河口域はこれらの水鳥の重要な生息場所となっていることが示された。

引用文献

- 浜口哲一・端山昇. 1984. 神奈川県内におけるツバメ類の繁殖分布. 神奈川自然誌資料5: 33-43.
- 原田孝一. 1992. 多摩川の鳥達, 115pp. 京王エージェンシー, 東京.
- 平林豊夫. 1986. 大師河原の鳥類センサス. 市民の手による川崎市域自然調査の報告 昭和61年度, pp.50-55.
- 平林豊夫. 1987. 川崎市の野鳥. 川崎市自然調査報告(1): 91-104.
- 石江馨・石江進. 1980. オオハシシギとカラフトアオアシシギの渡来. 神奈川自然誌資料1: 81-82.
- 石江馨・石江進. 1982. ハシブトアジサシとクロハラアジサシの渡来. 神奈川自然誌資料3: 65-66.
- 川崎市教育委員会. 1985. 市民の手による川崎市自然調査の報告, 54pp. 川崎市教育委員会.
- 川崎市教育委員会. 1986. 市民の手による川崎市自然調査の報告, 55pp. 川崎市教育委員会.
- 清棲幸保. 1980. 増補改訂版日本鳥類大図鑑 3Vols. 講談社, 東京.
- 黒田長禮. 1908. 羽田鴨場の記, 64pp. 斉藤活版所, 東京.
- 黒田長禮. 1919. 六郷川口に於ける鴨・千鳥類の「渡り」, 62pp. 日本鳥学会.
- 黒田長禮. 1939. 雁と鴨, 121pp. 修教社書院, 東京.
- 桑原和之. 1992. 多摩川河口で越冬するシギ・チドリ類. 神奈川自然誌資料 13:9-12.
- 桑原和之・小林美奈子・鈴木康之. 1988. 多摩川河口におけるカモメ類について(1985年4月から1986年3月). 山階鳥類研究所研究報告20: 37-40.
- 松田道雄. 1995. 江戸のバードウォッチング, 87pp. あすなろ書房.
- 箕輪義隆・嶋田哲郎・桑原和之・金田彦太郎・杉坂学・鈴木康之. 1991. 神奈川県自然誌資料12: 1-15.
- 箕輪義隆・桑原和之・田村満. 1996. 小櫃川河口鳥類目録(1974-1995年). 我孫子鳥博報5: 85-113.
- 三輪修三. 1988. 多摩川境界の風景, 173pp. 有隣堂, 横浜.
- 中村一恵. 1971. 神奈川県鳥類誌1, 50pp. 神奈川県立博物館.
- 中村一恵. 1974. 神奈川県鳥類誌2, 38pp. 16pls. 神奈川県立博物館.
- 中村一恵. 1978. 神奈川県におけるハクセキレイ(*Motacilla alba lugens*)の繁殖分布拡張—多摩川流域を中心に—. 川崎市文化財調査集録 13.
- 中村一恵・岩本重治. 1985. ハクセキレイとセグロセキレイの交雑個体について. 神奈川自然誌資料 6: 41-45.
- 中村一恵・石江馨・石江進. 1988. 多摩川河口で観察されたニシセグロカモメについて. 神奈川自然誌資料9: 55-58.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録第5版, 131pp. 学習研究社, 東京.
- 日本鳥類保護連盟. 1988. 鳥630図鑑, 394pp. 日本鳥類保護連盟, 東京.
- 日本野鳥の会. 1977. 多摩川流域における鳥類. 多摩川流域自然環境調査報告書, pp147-218.
- 日本野鳥の会神奈川支部. 1980. 神奈川の野鳥, 261pp. 有隣堂, 神奈川.
- 日本野鳥の会神奈川支部. 1986. 神奈川の鳥 1977-86 神奈川県鳥類目録, 218pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 日本野鳥の会神奈川支部. 1992. 神奈川の鳥 1986-91 神奈川県鳥類目録Ⅱ, 440pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 日本野鳥の会神奈川支部. 1996. かながわの鳥図鑑, 256pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1987. 野鳥情報. 観察記録(1986年8月から1987年12月). Strix6: 110-118.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1988. 野鳥情報. 観察記録. Strix7: 305-308.
- 日本野鳥の会記録委員会. 1989. 日本初記録の野鳥. 野鳥54(1): 38-43.
- 沼田真・風呂田利夫. 1997. 東京湾の生物誌, 416pp. 築地書館.
- 小倉紀雄. 1993. 東京湾, 193pp. 恒星社厚生閣.
- 奥田重俊. 1988. 多摩川の植物相. 日本の生物 2(2): 28-34.
- 大作栄一郎. 1981. 東京の野鳥, 220pp. 東京新聞出版局, 東京.

- 柴田敏隆. 1983. 神奈川の鳥, 309pp. 神奈川合同出版, 神奈川.
- 島根県立博物館. 1978. 伊達コレクション鳥類標本目録, 128pp. 島根県立博物館, 島根.
- 嶋田哲郎・桑原和之・箕輪義隆・金田彦田郎・鈴木康之. 1994. 多摩川河口域におけるサギ類の個体数変動. *Strix* 13: 85-92.
- 津戸英守. 1984. 多摩川の野鳥, 212pp. K K 第1出版センター, 東京.
- 高野伸二・叶内拓哉・森岡照明. 1981. 日本産鳥類図鑑. 474pp. 東海大学出版会, 東京.
- 高野伸二. 1989. 日本の野鳥第2版, 342pp. 日本野鳥の会, 東京.
- 氏原巨雄. 1986. 野鳥情報. 野鳥477: 34.
- 氏原巨雄. 1987. 野鳥情報. 野鳥489: 30.
- 氏原巨雄. 1988. 日本に舞い降りた野鳥たち. 野鳥500: 18.
- 海をつくる会. 1995. 横浜・野鳥の海の生き物たち, 266pp. 八月書館.
- 白井俊二. 1986. 野鳥観察ノート12. 野鳥447: 6.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野鳥 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF J Science Report* 3: 1-182.
- 矢作嘉博. 1989. ほくらは自然探偵団, 205pp. 実業之日本社.

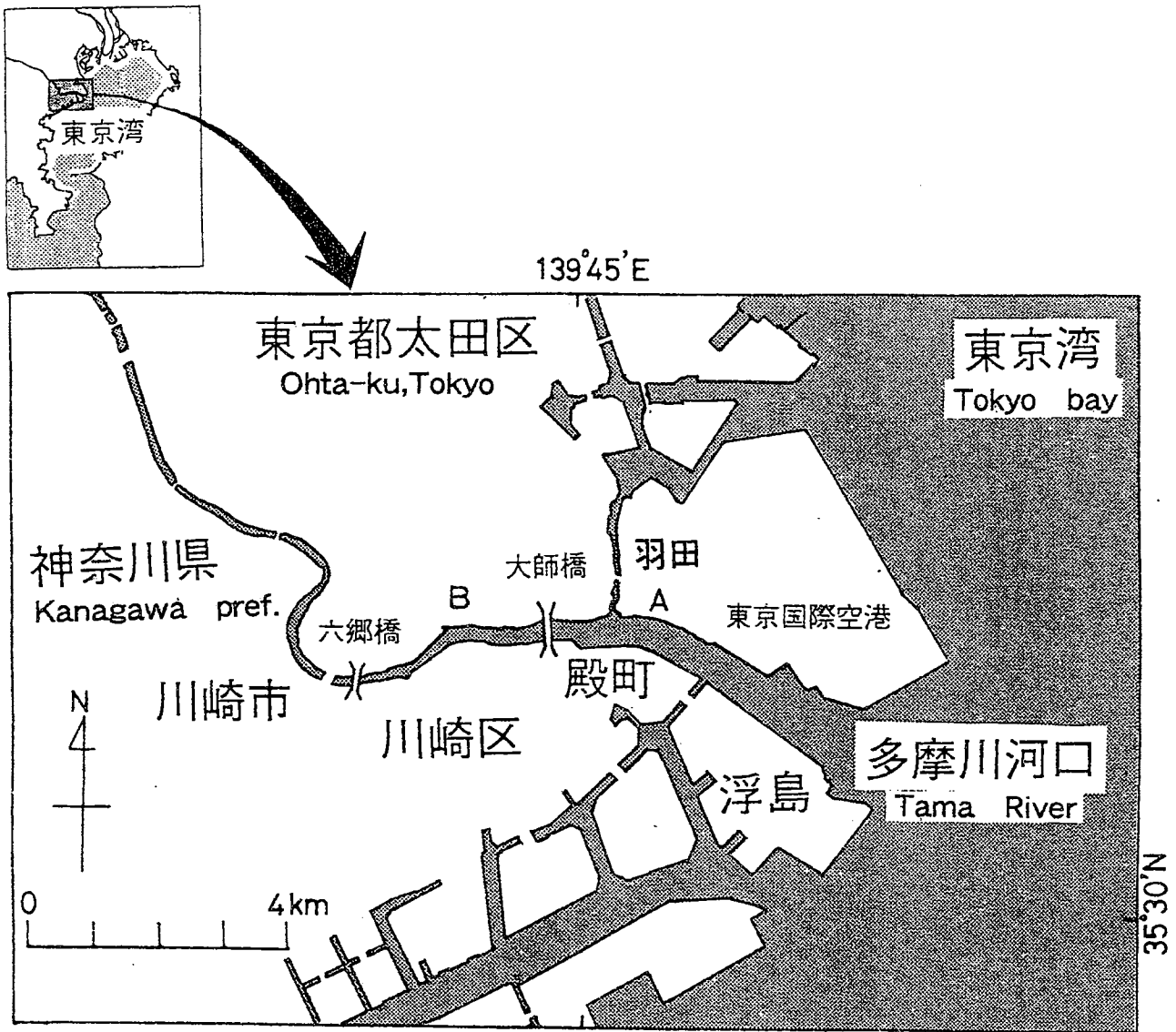


図1. 調査地 (多摩川河口)

つづき

		1996																																			
		Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	June	July	Aug.	Aug.	Aug.	Sep.	Sep.	Sep.	Sep.	Oct.	Oct.	Oct.	Nov.	Nov.	Nov.	Nov.	Dec.	Dec.	Dec.	Max											
45	セグロカモメ	36	31	4	4	4	1	4	1	+	+	+	1	2	8	3	34	57	91	79	224	184	93	11	118	224											
46	オオセグロカモメ	2	2	130	1			+	3	+											1		3	1	5	130											
47	カモメ	112	167	385	1	12				+												8	20	14	385												
48	ウミネコ	15	8	1	4	1	1	150	1016	2991	+	1987	1510	+	831	344	904	332	1201	1125	103	128	204	218	150	6	56	2,991									
49	ハジロクロハラアジサシ						1																			1											
50	クロハラアジサシ						2																			2											
51	アジサシ							1																		0											
52	コアジサシ																									0											
53	キジバト	26	254	121	71	129	230	3	+	2	3	+	2	3	+	+										254											
54	トバト	2	2	1	3	3	2	3	2	+	3	1	+	6	3	5	3	4	1	1	1	1	3	1	4	6											
55	ヒバリ	1	1	1	1	3	3	3	3		1	20		33	3	3							1	1	1	3	33										
56	ツバメ			1			8																			8											
57	イワツバメ	2		5	1	2	2	3	+	1	5	+	+													5											
58	ハクセキレイ	+																								0											
59	タヒバリ	3	7	5	3	4	4	2	2	2	+	2	4	+	3	3	7	5	4	4	7	4	4	8	6	5	8										
60	ヒヨドリ	18	7	4	1	3	3	1	1	+			4	+	2	3	3	16	7	9	3	5	3	9	8	12	7	18									
61	モズ	1	2	1									4	+	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2										
62	ノビタキ																									1											
63	ジョウビタキ																									1											
64	ツグミ	4	4	12	3															2		3	2	4	4	12											
65	ウグイス																									2											
66	オオヨシキリ																									2											
67	セツカ																									4											
68	シジュウカラ																									2											
69	メジロ	1	1																							2											
70	ホオジロ	4	2																							4											
71	アオジ	2	7	3																						7											
72	オオジュリン	1																								5											
73	カワラヒワ	11	9	12																						20											
74	スズメ	2	4																							4											
75	ムクドリ	10	59	10	5	10	5	3	10	27	18	+	14	20	+	8	34	46	39	21	44	28	44	61	290	53	29	24	290								
76	オナガ	6	2	12	12	15	12	23	41	12	3	+	1	4	+	8	13	3	11	8	3	6	4	2	25	1	41										
77	ハシボソガラス																										1										
78	ハシブトガラス	2	1	1	1	1	1	1	3				+	1	2	+	1	2	2	1	5	1	1	2	5	1	3	1	5								
	アヒル	3	1	1	2	1	2	1	1	+	+	3	2	+	2	1	1	3	2	8	4	3	15	1	1	2	15										
	No. of species	32	33	36	40	31	32	23	31	29	24	34	30	36	40	37	27	26	30	28	25	29	25	32	29	33	38	37	32	79							
	No. of total birds	1409	1090	3750	572	1772	436	283	519	1577	3471	0	2505	2345	0	0	1154	696	1283	714	1816	2656	2139	4380	2279	3858	5159	5234	4374	11933							
	Index of species diversity	2.19	3.3	1.95	2.1	2.64	3.5	3.2	3.3	2.01	1	0	1.48	2.25	0	0	1.8	2.8	1.99	3	2	2.1	1.7	2.7	3	3	2.1	2	2.08	1.3							

多摩川河口干潟(調査地A)で記録された種の個体数を示した。範囲はst.1-3である。

つづき

1996		7	29	4	8	18	25	15	29	5	12	26	3	9	17	20	8	15	Max	
st.4-st.5		May	June	Aug.	Aug.	Aug.	Aug.	Aug.	Sep.	Oct.	Oct.	Oct.	Nov.	Nov.	Nov.	Nov.	Dec.	Dec.	Dec.	Max
35	チュウシヤクシギ	3			2	1													3	
36	タシギ	3					1												1	
37	セイタカシギ						2						1	1	2	1			2	
38	ユリカモメ	682			1	2	28	104	18	21	666	1906	836	2938	597	542	3845	3845		
39	セグロカモメ	7							1	3	2	2	7	13	15	2	5	15		
40	オオセグロカモメ	1																	1	
41	カモメ	2																	2	
42	ウミネコ	1	5	41	40	28	16	28	15	23	18	12	9	1					41	
43	コアジサシ	60		7															60	
44	キジバト	5			1	6		1	1				5	2	2				6	
45	ドバト	13		151	71	218	302		127	142	145	155	218	181		94	130	302		
46	ヒバリ	1																	1	
47	ツバメ	7	3	4	11	4	5		5	7	7	7	7	5	7	3	11	7	11	
48	ハクセキレイ	3		5	4	5	6	3	5	5	7	7	7	7	5	7	3	11	7	
49	タヒバリ																		5	
50	ヒヨドリ																		24	
51	モズ																		2	
52	ジョウビタキ								2	5	5	24	4	3	2				2	
53	ツグミ												1						1	
54	センダイムシクイ	11																	11	
55	オオヨシキリ	1																	1	
56	セッカ	2	7																7	
57	ウグイス	2		4	4	6	3	1											6	
58	シジュウカラ	2																	3	
59	メジロ	1																	3	
60	アオジ																		3	
61	アオジュリン	1																	1	
62	カワラヒワ	3																	20	
63	スズメ	20	22	60	131	72	109	75	149	143	187	173	104	139	110	70	107	69	187	
64	ムクドリ	11	5	115	192	19	426	7	2	3	4	5	5	11					426	
65	オナガ																		2	
66	ハンボンガラス	3	1	2	1	2	1	3	1	3	2	1	1	5	2	4			5	
67	ハンブトガラス			2		3	4	4	3	2	4	4	4	13	2				13	
No. of species		39	11	26	22	24	28	26	26	30	23	25	25	28	21	27	31	26	67	
No. of total birds		1098	142	811	729	722	1201	380	487	506	560	1196	2541	1654	3584	918	1165	4452	6281	
Index of species diversity		2.48	2.65	3.13	3.18	3.16	2.85	3.2	2.96	3.27	3.02	2.28	1.56	2.51	1.25	2.06	2.94	1.02	2.82	

六郷干潟(調査地B)で記録された種の個体数を示した。範囲はst.4-5である。

つづき

1996		Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	June	July	Aug.	Aug.	Aug.	Aug.	Sep.	Sep.	Sep.	Oct.	Oct.	Nov.	Nov.	Nov.	Dec.	Dec.	Max								
species	st.1-st.5																														
48 モロロカモメ		36	31	+	7	4	1						1	2	8	4	37	59	93	86	237	199	93	13	123	237					
49 オオセグロカモメ		2	130	+	1			4	1	+	3									1			3	1	5	130					
50 カモメ		112	167	385	+	14																	8	20	15	385					
51 ムネコ		15	8	1	+	2	1	155	1016	41	3031	+	859	344	919	355	1219	1137	112	129	204	218	150	6	56	3031					
52 ハジロクロハラアジサシ							1																			1					
53 クロハラアジサシ						1	2																			2					
54 アジサシ																										0					
55 コアジサシ																										314					
56 キジバト		2	2	1	+	5	3	2	2	3	3	+	6	3	6	4	4	1	6	3	3	3	1	6	1	7					
57 Kバト		13	13	3	3	3	3	151	71	219	322		33	130	145	145	155	218	182	1	1	95	133	322		8					
58 ヒバリ		2			8																					14					
59 ツバメ		+	7	5	1	5	2	4	14	+	+															0					
60 イロツバメ		+	7	4	2	2	5	6	+	7	10	+	6	3	12	10	11	11	12	11	7	8	17	12	17	0					
61 ハウセキレイ		3	7	5	+	7	4	2	2	5	6	+	6	3	12	10	11	11	12	11	7	8	17	12	17	5					
62 タビ		18	7	4	+	3	3	1	1	1	+	1	4	+	2	3	5	21	12	33	7	8	5	9	8	31	9				
63 ヒヨドリ		1	2	1																						3					
64 モス																										1					
65 ジョウビタキ																										1					
66 ノビタキ		4	4	12	+	11																				1					
67 ヅグミ																										13					
68 ウグイス																										5					
69 オオヨシキリ																										11					
70 センダイムシクイ																										1					
71 セツカ																										6					
72 シジユウカラ		1	1																							4					
73 メジロ		4	2		3																					5					
74 ホオジロ		2	7	3																						7					
75 アオシ		1																								8					
76 オオジュリン		11	9	12	1																					40					
77 カワラビロ		2	+	3	1																					5					
78 スズメ		10	59	10	+	30	5	3	32	27	60	149	+	83	34	195	182	208	217	132	183	171	360	53	136	93	360				
79 ムクドリ		6	2	12	+	26	12	23	46	12	115	195	+	15	13	5	14	12	8	6	15	2	30	35	30	430					
80 オナガ																										1					
81 ハシロガラス		2	1	+	4	1	4																			3					
82 ハシブトガラス		3	1	+	2																					1					
83 アヒル		32	33	36	39	48	32	23	31	29	26	29	34	35	37	40	37	36	26	34	37	31	32	31	39	32	37	38	42	38	83
No. of species		1409	1090	3750	0	2870	436	283	661	1577	811	4200	0	3227	3546	0	1534	696	1770	1220	2376	3852	4680	6034	5863	4776	5159	6397	8826	16185	
No. of total birds		2.19	3.3	1.95	0	2.79	3.5	3.2	3.5	3.2	2.01	3.2	1.84	0	2.35	3.1	0	2.56	2.85	2.71	3.6	2.75	2.46	1.74	3.03	2.47	3.06	2.1	2.4	2	4.007
Index of species diversity																															

多摩川河口干潟(調査地A)と六郷干潟(調査地B)で記録された種の個体数の合計を示した。範囲はst.1-5である。

つづき

Japanese name	species / Date	1995												Max		
		Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	Jun.	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.			
44 ユガラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	3	3	2	1	1	2						1		1	3
45 ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	2	1		1		1								+	2
46 ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>		4		5		10		3	+	3	2	+		+	10
47 イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>		6				1		+	1						6
48 キセキレイ	<i>Motacilla chereia</i>	2	1		3		3		2		1	3	+	1	+	3
49 ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	4	3	6	3	1	2		3	+	2	3	+	6	+	6
50 セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	2	2	5	3	1	1		3	1	+	4	+	3	+	5
51 タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>	3	4	4	12										+	12
52 ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	2	2	2	15	1	3		3		1	3	+	5	+	15
59 モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	2	2				1		1		1	2	+	4	+	4
54 ルリビタキ	<i>Eriothacus cyanurus</i>	1														1
55 シヨウビタキ	<i>Phoenicurus aureorus</i>	3	1												1	3
56 ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	4	2	1	5									1	1	5
57 ウグイス	<i>Cettia diophona</i>	1	2	1		2	1	1						1	1	3
58 オオヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>					3	1	2	1							3
59 セツカ	<i>Cisticola juncidis</i>					2	1	3	+	1		+			1	3
60 エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>					1										3
61 ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	5		2												5
62 シジュウカラ	<i>Parus major</i>	10	14	3	38	1	5	1	2	3	3	6	6	3	+	38
63 メジロ	<i>Zosterops japonica</i>					1	1					2	2	3	5	5
64 ホオジロ	<i>Emberiza olivoides</i>	14	4	5	4	3	2	3				5	5	2	+	14
65 カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	2													4	5
66 アオジ	<i>Emberiza sspodocephala</i>	12	7	3	1										2	12
67 カワラヒワ	<i>Carpodacus sinica</i>	65	1	1		2						+	5	+	+	65
68 シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	7	4	2											3	7
69 スズメ	<i>Passer montanus</i>	55	57	36	1	3	5	4	4	+	59	+	24	+	200	200
70 アクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	22	3	2	16	5	2	15	+	2	+	11	+	2	+	22
71 オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	4	2	2	3	1	1						1	+	+	4
72 ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	34	6	1	9	1	1	1	+	1	+	1	9	+	+	34
73 ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	47	34	46	41	11	6	39	11	14	7	33	5	31	15	25
No of species		690	395	274	316	206	44	84	44	107	68	78	46	107	62	223
No of total birds		9.99	9.85	4.95	4.02	2.11	1.49	5.00	2.32	1.99	1.02	4.66	0.96	4.33	1.48	2.69
Index of species diversity (H')																

関戸橋からは政橋までの範囲のセンサスの結果を表した。

